

平成 2 8 年度中学入試

[前期 A 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて 1 6 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期 A 入試] 受験番号_____

金蘭千里中学校

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

プロ・ツアーを卒業してからの僕は、ジュニア選手を育成するためのキャンプ（現在の「**シヨウゾ**チャレンジ・トップジュニアキャンプ」）を立ち上げたいと考えていました。

しかし、大きなプロジェクトを**a キドウ**させるときには追い風ばかりではありません。最初の一年間はうまくいかないことだらけで何度も心が折れそうになり、一時は人間不信におちいったこともありました。

「日本の選手が世界に出ていくためのサポートを少しでもしたい！」との**おも**いをも、日本テニス協会のトップの方々話す**b キカイ**を得た僕は、

「今のままでは世界に通用する選手は日本から出てきませんよ」

「こうしないと日本のテニスは変わらないんです」と、熱く語りました。

（ X ）、「どんな組織でも、たくさん**経験**を積んできたトップの人たちには、「自分たちがこの組織を支えてきたんだ」という**c ジブ**があります。それまでのやり方を変えることをためらう人もたくさんいます。それは当然のことなのに、三十代になったばかりの僕は、そういう**先輩**方の気持ちをよく理解できていませんでした。そのため、「いや、きみの言っていることはおかしい。テニス協会のやり方はこうなんだ」

「現行の強化策には、こういう**経緯**があったんだ」と言われるたびに、「だけど、こうしたほうが……」「いや、今までの経緯は別として……」と、つい言い返したくなってしまう。それだけ**気合**が入っていたわけですが、オウム返しに反論すれば、①**相手**も感情を害してしまいます。

それによって、話がうまく進む可能性のあるものを、自分から崩してしまったことが何度もありました。先輩方が築き上げてきたもののなかには、僕にとって大きなヒントがあったはずです。そうした話にしつかり耳を**傾**け、

「勉強になりました。本当にありがとうございます。ただ、この部分を、もしこういうかたちに変えることができたら……」というように話していたら、**交渉**はもっとスムーズにいったでしょう。

日本テニス界の歴史を築いてきてくださった方々に対して、**d ナマイキ**なことを言ってしまったことを**恥**じ、心から反省しています。当時の僕は、②**自分**が変われば**相手**も変わるということを、まだ知りませんでした。

今になって、「**すく**損をしていたな」と思います。振り返ると、あのときの僕は**肩**に力が入りすぎ、ただ熱っぽく語るだけで、本当の想いを伝えきれていなかった。そんな反省点ばかりが目につくのです。

僕が**e コウソウ**していたトップジュニアキャンプは、ひとことというところと「③**縦**のつながりを重視した指導体制」でした。それまでの指導体制には、ジュニア、高校生、大学生、社会人という区分があり、それぞれが独自に**合宿**や**遠征**などをし

ていたため交流がありませんでした。たとえば、十二歳のジュニア選手が（注1）デビスカップに出場した社会人選手と一緒に練習することなど、ありえなかったのです。

これではジュニア選手たちが「世界」を身近に感じることはできないし、「世界で勝つこと」を意識させるのは非常にむずかしい。年齢やキャリアを超えて縦の交流が生まれるような体制を協会の中につくり、合宿や遠征を含めた長期的なスケジュールのもとでトップジュニアの指導を行いながら、指導者も育成していく（注2）メソッドを確立すれば、世界で活躍する選手を育てられるはずで、そうした協会としてのトップジュニア育成プロジェクトを立ち上げるためのルールを敷きたいと、僕は考えました。

僕が個人的にジュニアの強化合宿を年に数回主催するという方法もあったかもしれませんが、年に数回の合宿だけで選手が強くなるはずがありません。

協会による（注3）オフィシャルな合宿で継続的に指導していけば、ジュニアたちが高校生、大学生になっても同じスタンプがついて一貫性のある指導が行えますし、データの共有もできます。トップジュニアを強化するには、これしかないと思っていました。

しかし、これは世界でも類のない指導体制でした。今でさえ、他の国では行われていません。それゆえに、当時はさまざまな壁があったのです。

周囲から相当な反対にあっても説得し、その壁を乗り越えていくしかありません。ジュニアの強化は僕にとって「本気でやりたいこと」だから、よけい必死になりました。

正直にいうと、「日本のテニス界のためにやっているのに、なんでこういう状況になるんだ……」という不遜な思いが心をよぎったこともあります。でも、「そう思ったらすべて終わりだ」と、すぐに打ち消していました。④「日本のテニス界のために」という気持ち大きくしていたら、トップジュニアキャンプの計画は間違いなく挫折していたでしょう。

もしも今、あなたが仕事に対して「誰かのためにやっている」という意識を持つているなら、すぐに捨てるべきです。なぜなら、そういう意識を持つと、意見が通らないときに「なぜ、わかってくれないんだ」と、（注4）ネガティブな気持ちになってしまうからです。それが「コウジ」で、「周りの全員が敵」という超マイナス思考になってしまう人もいます。

そういう思考にしているのは、まぎれもなく自分自身なのだと思付く余裕すら、なくなってしまうのです。また、結果が出なければ、「こんなにやってあげたのに」と恩着せがましい気持ちが生まれてきます。その雰囲気は周囲に伝わるので、いい出会いやツキが逃げていき、マイナスのサイクルに入ってしまうのです。

こういう「化学反応」は、どんな仕事にもあると思います。誰のためでもなく「自分の夢のため」ならば、挫折感に負けず、「どうすれば」（注5）リカバリーできるか、どうすればわかってもらえるか」を本気で考えることができるのです。

心が折れそうになっても耐え、夢の実現に向けて行動し続けられれば、きつと認められます。僕の夢であったトップジュニア

キャンプも、今では協会のみなさんが理解を示し、協力してくださっています。

トップジュニアキャンプを立ち上げるまでのさまざまな失敗や、心が折れそうになった経験を通して、僕は、人とのコミュニケーションはどうあるべきかを学ぶことができました。

今だから言えることですが、現役時代の僕は、「テニス協会は僕らのために何をしてくれているのかな？」と思っていました。それが⑤認識不足もはなはだしいことだったと気づかされたのは、実際に自分が協会のいろいろな仕事をするようになってからです。

日本テニス協会を支えるほとんどの方は、⑥手□□で活動しています。他に仕事を持っていて、土・日にジュニアの応援をし、自分には何の利益にもならないのに、スポンサー探しに奔走して大会の運営をサポートしているのです。

日本のテニスを支えようという協会のみなさんの想いや、どんなかたちでテニスを盛り上げてくださっているのかを目の当たりにして、感謝の気持ちでいっぱいになり、「自分は何もわかっていなかった」と、つくづく反省させられました。そこから、ジュニアの育成に関する自分の考えを理解してもらうためには何が必要なのか、今までの自分には何が足りなかったのか、ということも見えてきたのです。実際に行動しなければ、こういう気づきはなかっただろうと思います。

トップジュニアキャンプの趣旨は、僕の最初の話し方が悪かったこともあり、なかなか理解してもらえず、しっかりと合宿ができるまでにはかなりの時間がかかりました。でも、それを後悔したことはありません。(Y)、このときの経験は⑦得難い宝となっています。

いつもやたらと熱くなっているように思われる僕ですが、仕事を進めるうえでのキーワードは「冷静さと論理性」。その重要性を教えてくれたのが、トップジュニアキャンプ立ち上げまでの傾聴と説得の日々でした。

幸い、錦織圭選手も含めて十代前半の選手たちが、世界のジュニア大会で優勝するなど結果を出してくれたため、トップジュニアキャンプの価値を多くの人が理解してくださるようになりました。

錦織圭という選手は、僕がつくったわけでもなんでもありませんが、

「トップジュニアキャンプに参加していちばんよかったのは、日本ではなく世界で勝つことを意識させてくれたことです」と彼が言ってくれたときには、本当に嬉しかった。僕が望んだのは、まさにこれでした。

日本のジュニア選手たちが、世界で勝つことを意識し、世界で活躍するようになる――。それこそが、このキャンプを立ち上げた動機であり、最大の目標だったのです。

(松岡修造『挫折を愛する』より。一部改めたところがある)

(注1) デビスカップ：毎年行われる男子テニスの国別対抗戦
(注2) メソッド：方法

(注3) オフィシャル・・・公式

(注4) ネガティブ・・・物事を悲観的に考えること

(注5) リカバリ・・・回復

(一) 波線部 a↘f のカタカナを漢字に直しなさい。

a キドウ b キカイ c ジフ d ナマイキ e コウソウ f コウ(じて)

(二) (X) (Y) に入るもっとも適切なことばを、それぞれ次のア↘カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ むしろ ウ そして エ しかし オ また カ では

(三) 傍線部①「相手も感情を害してしまします」とあるが、なぜ感情を害してしまうのか、その理由を説明したもつとも適切なものを、次のア↘オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」が話す内容がテニス協会の方法と同じものだったから。

イ 「僕」が現在行われている強化策について理解していなかったから。

ウ 「僕」の反論には新しい意見がなく、オウム返しのものだったから。

エ 「僕」がテニス協会を良くしようと、気合の入った説得をするから。

オ 「僕」が説得をする時、相手の立場や気持ちを理解しようとしなかったから。

(四) 傍線部②「自分が変われば相手も変わる」とあるが、どういうことか、その説明としてももっとも適切なものを、次のア↘オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア テニス協会のトップに熱意をもって説明したら、協会がその説明を理解してくれるということ。

イ テニス協会のトップの意見に対してすべて反論して説得したら、協会が受け入れてくれるということ。

ウ テニス協会のトップの意見を聞き、その意見を受け入れたうえで説明したら、協会が理解してくれるということ。

エ テニス協会のトップの意見をしっかりと聞き、その意見を受け入れ協会の活動に協力するようになるということ。

オ テニス協会のトップの熱意に対して、冷静に論理的に反論し、協会の考えを変えさせるということ。

(五) 傍線部③「縦のつながりを重視した指導体制」とあるが、この指導体制にはどのような利点があると筆者は考えているのか、九十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(六) 傍線部④「日本のテニス界のために」く挫折していただきましょう」とあるが、そのように考えるのはなぜか、その説明をした次の文章の空欄に適する部分を、それぞれ指示された字数で本文中から抜き出しなさい。

(A 十一字) という気持ちを持っていると、(B 七字) ときや結果が出ないときに、マイナス思考や
(C 十字) が生じ、それが周囲に伝わり、(D 八字) が逃げてしまうから。

(七) 傍線部⑤「認識不足もはなはだしいことだったと気づかされた」とあるが、「認識不足」に「気づかされた」結果生まれたものは何か、本文中から六字で抜き出しなさい。

(八) 傍線部⑥「手□□」の□に適する漢字を入れ、「自分の費用」という意味の漢字三字の熟語を作りなさい。

(九) 傍線部⑦「得難い宝」とあるが、筆者が得たのは何か、二十五字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

寺山テツコは十九歳の時に一樹と結婚して寺山家に嫁入りするも、二十一歳で一樹をガンで亡くす。その後も義父である連太郎と同居を続け、現在は同じ会社に勤める岩井さんと交際している。

岩井さんは、Xめざとくソファの席が空いたのを見つけて、コーヒーカップを持って、移動する。あわてて、テツコも自分のカップを持って、後についてゆく。彼はいつもそうなのだ。一緒に話していても、ソファの席が空いてないか、視線は常に油断がない。そして、空いたと知るや、どんなに重要な話をしていても必ずそこに移動する。一度、なぜそんなにソファに固執するのか聞いたことがある。だって、同じお金払っているのにもつたいないじゃない、という答えだった。

「で、どう思う？」
と岩井さんは真剣な目で聞いてくる。

と言われても、肝心な話は、移動でさえぎられていて、ほとんど聞いていない。そのことをテツコが言うと、「何だ、それ」とかなり気を悪くした様子である。

「だって、しょうがないじゃない。話の途中で、席、移るんだもの」
岩井さんは、しょうがないなああと、もう一度言う。

「だから、そろそろ結婚しようかって、そういう話だよ」

A時は重なるもので、テツコは、岩井さんの話が終わるか終わらないうちに三回立て続けにクシヤミをしたものだから、岩井さんは、aハンシヤ的にカップを持ち上げ体をいっぱいに反らした。テツコの唾を吸い込むまいと息まで止めていた。ふとテツコと目があって、二人の間に何とも気まずい間が流れた。

「——だから、つまり、結婚のことだよ」

岩井さんは、もう大丈夫と思っただのか口を開いた。

「ひよんなふおと、きゆうにひゆわれてもさあ」

テツコが鼻を拭きながら不機嫌に言う。

「え？」

そんなにbケツしい顔でプロポーズしなくてもいいだろうが、とテツコは思う。

「だから、そんなこと、急に言われてもさ」

「急って言うけど、いつ言えば急じゃないのさ」

「だって、結婚したら岩井テツコだよ。イヤだよ、そんな固そうな名前」

そんな答えが返ってくるとは想定していなかったのか、岩井さんはしばし固まっていた。が、すぐに落ち着きを取り戻した。

「①うん、見えた」

見えた、というののは、岩井さんの中学生からの口癖だ。数学の授業で、図形を諦めずにじつと見ていると必ず補助線が見えてくると教えられたそうだ。「ほら、もう見えたな。見えてきた、見えてきた」と先生に言われるとたしかにクツキリとその線は見えて、手品のように問題はきれいに解決されるのだと岩井さんは言う。この時、どんな補助線が見えたのか、「了解しました。ボクが悪かった」

と岩井さんは、あっさり言った。

「そうなんだよ。こんなところにする話じゃなかったんだよ。それで怒ってるンでしょう？ やつぱりそれなりの設定がいるんだよね。女の子は特に、そういうの、こたわるんでしょう？」

「そーゆーのって、どーゆーの？」

「わかってるって。こたわってるからすねてるんじゃない。わかった。わかった。ちゃんとするから。感じのいい店とか、ブランドの指輪とか」

②話の方向性がずれていると言いたかったが、岩井さんは、問題が解けた中学生のように B で話を聞こうとしない。「この話は、また改めて席をもうけてするということ——悪かったね。そうだよ、(注)デリカシーがなかったかもね」岩井さんは、時計を見ると、オッもうこんな時間だ、とまるでテレビドラマの Y 段取り芝居のように鞆を持って立ち上がった。

「じゃあ、この話は聞かなかったことでよろしく」

ニッコリ顔をつくって、余裕で出てゆく岩井さんを見送りながら、テツコは、ヤバイよなあ、と思った。

その日は、珍しく、ザンキョウになった。テツコは電車を待ちながら、聞かなかったことにしてくれ、という岩井さんの言葉を思い返していた。よくよく考えてみれば、③前兆はあったような気がする。「名字、旦那のだろ。元に戻さないの？」とか、「今の家を出て実家に戻るのがフツーじゃないかな」とか、しつこく言っていた。

「ヘンだよ、死んだ夫の父親と二人で暮らしてるなんて、人にヘンに思われるって」

「誰もそんなこと思わないと思うよ」

とテツコが言うと、

「あまいな。皆、心の中でそう思ってるもんなんだって」

そんな会話もあったような気がする。ヘンに思っていたのは、つまり当の C だったわけである。

「そろそろ、結婚しようか」と言われても、今のテツコには、さほどありがたい言葉ではなかった。岩井さんが嫌いだとか

そういう話ではない。他人と暮らしてゆくということがどういうことか、九年も義父と暮らしてきたテツコにはよく見えるのだ。今さら誰かと暮らしても、何かが変わるといことは、おそらくないだろう。むしろ引き受けるべきdザツタなことが増えるだけである。

「めんどくさい」

テツコは、思わず声に出してしまい、あわてて辺りを目だけで見回す。もちろん、電車を待つ周りの人の顔は、それぞれに無表情だ。

隣に立つ若い女の子は、自分の世界に没頭していた。真剣に手紙を読むその手の甲に何か書いてあるのが見えた。「ガス代」とボールペンできっちり書いてある。滞納しているガス代のeノウキが迫っているのだろうか。忘れたらガスを止められてしまうのだろうか。テツコは一人暮らしというものをしたことがないので、そんなギリギリの生活は想像がつかない。でも女の子の丸い文字からは、そんな差し迫った緊迫感を感じられなかった。手紙の端が見えた。会社の連絡用箋のようなものだろうか、そこに黒々した字で大きく「さびしすぎるわ！ 吉本さん！」と書かれていた。ものすごく下手くそな字だった。思わず目で追うと、後は小さな字で「転職ですか」とか「結婚するんですか」とか「何で突然辞めたんですか」とか細々と書かれていて、最後にこれまた大きな字で「徳田剛」となぐったように書いていた。

女の子は、手紙を見ながらケータイを取り出して真剣に何やら打っていたが、やがてメールでは間に合わなくなったのか、「ああ、もうッ！」と小さく言うと言ったようにケータイを折りたたみ、改札に続く階段を息を詰めて見つめた。そして、ちよつとZ躊躇した後、思い切ったように、並んでいる列から離れて、全速力で階段に向かって駆けていった。次のが最終の電車で、もう後はなかった。

④ 凧みたいだなと、テツコは思った。糸が切れて空に飛んでいった凧みたいに、女の子は階段の上へ上へみるみる小さくなってゆく。あの「さびしすぎるわ！ 吉本さん！」という文字が彼女の何を突き動かしたのだろう。岩井さんの「そろそろ結婚しようか」というコトバは、今なおテツコの頭上に風船のようにむなしく浮かんだままだ。

女の子が抜けた後、列は少しづつ詰められて、何事もなかったかのように、待ち続けることに専念する。⑤ それは、今日も抜け出すことのできなかつた不器用な者の集団のようにテツコには思えた。

(注) デリカシー：…心配り。 心配り。
(木皿泉『昨夜のカレー、今日のパン』より。一部改めたところがある)

(一) 波線部 a s e のカタカナを漢字に直しなさい。

- a ハンシヤ b ケワ(しい) c ザンギョウ d ザツタ e ノウキ

(二) 二重傍線部 X・Y・Z の本文中の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

X めざとく

ア ずるがしい

イ 注意深い

ウ 見つけるのが早い

エ 一つのことにとだわる

オ 目が覚めやすい

Y 段取り芝居

ア はじめから結末のわかっている芝居

イ 芝居がかって大げさな素人の演技

ウ 相手と交互に台詞をやりとりする芝居

エ 台詞と行動がぴったり合った演技

オ あらかじめ決められた動きと台詞通りの芝居

Z 躊躇

ア 反省すること

イ 身もだえすること

ウ 緊張すること

エ 確認すること

オ ためらうこと

(三)

A

・

B

に入るもっとも適切なことばを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A

 ア 気の早い

イ 珍しい

ウ 勘の鈍い

エ 間の悪い

オ おぞましい

B

 ア 能天気

イ 有頂天

ウ 情熱的

エ 低次元

オ 無関心

(四) 傍線部①「うん、見えた」とあるが、岩井さんにとつては何が「見えた」のか、その理由を説明したもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 席を移ることを嫌がったテツコの気持ち

イ テツコが怒ったりすねたりしている理由

ウ 二人の話の方向性がずれてしまった原因

エ テツコが結婚した後の名前にこだわること

オ 突然のプロポーズを受け入れたテツコの喜び

(五) 傍線部②「話の方向性がずれている」とあるが、岩井さんとテツコでは考えていることにどのようなずれがあるのか、そのことを説明した次の文の空欄Ⅰ・Ⅱに入る適切なことばを、与えられた条件に従って、それぞれ答えなさい。(各制限字数は句読点を含む)

岩井さんは、(Ⅰ 十五字以内)をすればテツコが満足すると思っているが、
テツコはそもそも、(Ⅱ 「うため、う」という形で三十五字以内)。

(六) 傍線部③「前兆」とはどういうことの前兆か、二十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(七) Cに入る適当なことばを、漢字二字で答えなさい。(本文中のことばを用いないこと)

(八) 傍線部④「凧みたいだなと、テツコは思った」とあるが、テツコがそう思ったのはなぜか、その理由を説明したもつとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 階段を全速力で駆け上がる女の子の姿が、くるくる回りながら空へ空へと舞い上がる、糸の切れた凧のように気味の悪いものに見えたから。

イ 最終電車に乗れないことを覚悟して、自分の目指すべきところへ走って行く女の子の大胆な姿が、糸の切れた凧のように、無鉄砲なものに思えたから。

ウ 仕事を辞めてでも好きな男の胸に飛び込んでいこうとする女の子の姿が、糸の切れた凧のように、自由に希望に満ちて、輝いているものに思えたから。

エ 結婚するつもりもない徳田という男のところへ行こうとする女の子の姿が、どこへ向かうのかわからない糸の切れた凧のように、頼りないものに思えたから。

オ 階段を駆け下りる女の子を見てみると、段々小さくなるその後ろ姿が、いずれどこかで地面に落ちてしまう糸の切れた凧のように、はかないものに思えたから。

(九) 傍線部⑤「それは、今日も抜け出すことのできなかつた不器用な者の集団のようにテツコには思えた」におけるテツ

コ of 気持ちを説明したものとしてみてもっとも適切なものを、次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思い切った行動をした女の子とは異なり、今日こそは列を抜けようと考えながら、いつまでたっても行動できない人々の姿を見て、自分も、岩井さんとは絶対結婚できないにちがいないと憂鬱ゆううつになっている。

イ 女の子の勇氣ある行動を目の当たりまにして、心を動かされながらも列を乱すことなく最終電車を待ち続ける人々の姿にいらだちを覚え、そんな列の中に入ったまま同じように何もできなかった自分を情けなく感じている。

ウ 行動力と判断力に優すぐれた女の子と違い、最終電車を待つことしかできない他の人々が、生き方の不器用なみつも
ない存在に思えたため、自分は、岩井さんとの結婚について前向きな判断を下そうと、気持ちを新たにしている。

エ 突き動かされるように列を飛び出した女の子と違って、最終電車を待つ人々は、様々な思いを抱かかえながらも「日常」
を手放すことができないように見えて、そんな彼らと、結婚について結論を出せない自分自身を重ね合せている。

オ 「そろそろ結婚しようか」と言った岩井さんのコトバが、頭上に浮かんだ風船のようにテツコの頭から離れず、そ
んな自分と、次に来る電車のことだけを考えていられる人々が違っているように思え、彼らにうらやましさを感じ
ている。

【問題は以上で終わりです】

①

(九)	(八)	(七)	(六)			(五)				(三)	(一)	
			D	B	A					X	d	a
	手											
										Y		
											e	b
										(三)		
					C							
										(四)		
											f	c
												(二)

②

(八)	(七)	(六)	(五)		(三)	(一)	
			II	I	X	d	a
(九)					Y		
					Z	e	b
					(三)		
					A		(しい)
							c
					B		
					(四)		

得点	
受験番号	

前期 A 解答

① 解答 (60点)

(一) a 起動 b 機会 c 自負 d 生意気 e 構想 f 高(じて)

(二) (X)エ (Y)イ 2点×2

(三) オ 5点

(四) ウ 5点

(五) 年長の選手との交流により、「世界」を身近に感じ、「世界で勝つこと」を意識できるようになり、協会による一貫した指導が行えるようになり、データの共有や、指導者の育成もできるという利点。(90字)

12点

(六) A 誰かのためにやっている B 意見が通らない

C 恩着せがましい気持ち D いい出合いやツキ

(七) 感謝の気持ち 3点×4

(八) 弁当 3点

(九) 仕事では冷静さと論理性が重要だという意識。(21字) 8点

② 解答 (60点)

(一) a 反射 b 険(しい) c 残業 d 雑多 e 納期

(二) X ウ Y オ Z オ 1点×5

(三) A エ B イ 3点×3

(四) イ 3点×2

(五) ・それなりの設定でのプロポーズ(14字) 4点

・他人と暮らすことの面倒くささを知っているため、結婚に乗り気ではない(33字) 6点

(六) 岩井さんがテッコにプロポーズすること(18字) 6点

(七) 本人 4点

(八) イ 6点

(九) エ 8点